

3月27日(月)

破 壊 す る 思 考

聖書朗読 詩篇 34:11~18

私たちは、・・・すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、

Ⅱコリント 10:5

「私は邪魔者だし、ふさわしくないね」。「彼にイエス様のことなんて話したら、彼は怒っちゃうよ」。「私は価値のない人間なんだ」。「私は彼らほど学があるわけじゃないし、私の言ったことは重要じゃないでしょ」。「僕は彼女を困らせたくない」。「俺は彼ほど良くできたやつじゃないな」。「彼女は今休んでいるだろうから、今彼女のところへ行きたくないな」。「私にできることなんてあるの」。

毎日毎分毎秒、一日中ずっとこんなふうに考え続けます。これは破壊する思考です。これは私たちの考えに忍び込み、そこに居つき、麻痺させ、良い行いを妨げ、私たちが良い行いを歩む機会を破壊し、奪うのです。

私たちはこの破壊する思考や自分自身につく嘘に打ち負かされることなく、逆に「すべてのはかりごとをとりこに」しましょう。私たちの考えが神様の御言葉に反していないか聖書を通じて確認しましょう。もしも悪い考えが忍び込んだときは自分に「この考えはイエス様に従っているのか。真実なのか」と問いかけましょう。はかりごとをとりこにするのです。私たちは嘘から解放されることが出来ます。嘘に耳を傾けてはいけません。嘘は神様が私たちの人生に期待されているものを妨げてしまうのです。

讃美歌 461

祈り 愛する神様。私たちが良くない内容を口にすることが内容、また私たちが嘘を言うことがないようにしてください。私たちが良くない考えから遠ざけ、自身をだまそうとする嘘からお守りください。

神様が真実であることを信じます。アーメン。

サンデ・ドーガリテ

カリフォルニア州 マリブ

今日の力

2017年3月27日～4月2日

翻訳 中野雄貴

ゲラ弘美

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

3月28日（火）

希望無き時にこそ希望を

聖書朗読 詩篇 42：1～11

わがたましいよ。なぜ、おまえはうなだれているのか。なぜ、私の前で思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。私の顔の救い、私の神を。

詩篇 42：11

なじみの場所や習慣から疎外された者、礼拝を支えていた儀式や心に安定をもたらしていた祭式に否定された者。詩篇42編はそんな追放された者の嘆きです。

詩編のいたるところで筆者は綿密に彼がうなだれているわけを一から語っています。彼は自分を渇き、水を求める鹿に例え、涙する日々を語り、見えない神を信じる彼を疑いあざける人々のことを表し、二度とは出来ぬ巡礼のことを思い描き、もう見ることがかなわない地のことを思い出しています。

しかし、この悪い思考が余りにも高く積みあがり、彼がその思考に飲まれそうになるたびに、彼は悲観から立ち返り、神がうなだれたままにはさせておかないことを思い返します。彼の望みは神にゆだねています。たとえ嵐の中でも神はほむべき方です。そして彼が平静ではいられないような嵐の時であっても、神にゆだねた望みは平安を導き、その顔を上げさせます。

讃美歌 鹿のように

祈り 天のお父様。私たちは困難の内にあつて、絶望し希望がないように感じます。どうか私たちがその困難の先にあるものに目を向け私たちの望みを預かってくださっている方のことを思い起こせますように。アーメン。

タミー・ディトモア

カリフォルニア州 ニューベリーパーク

3月29日（水）

忙しい忙しい

聖書朗読 詩篇 46：1～11

「やめよ。わたしこそ神であることを知れ。わたしは国々の間であがめられ、地の上であがめられる。」

詩篇 46：10

いつから社会はこんなに忙しくなったのでしょうか。毎日のように誰かが「ああ忙しい」と言っているのを聞きます。しかし忙しさに対する文句は多くの場合悲しみというより、誇るかのようにして言われています。まるで過労は美德とでも言わんばかりです。

最後に庭先で小鳥がさえずるのを聞いたのは、星の瞬きを目にしたのはいつでしょうか。最後に神様の声を聴こうと10分でも時間を使ったのはいつでしょうか。あなたのいろいろと書き込まれすぎている予定表には、聖書の勉強と祈りの時間がありますか。あなたは神様のために時間を取っていますか。

私たちの先祖は農業や炭鉱業、商業といったものに長く忙しく従事していました。しかし彼らは意思と日々の習慣をもって生きていたように思えるのです。彼らは仕事を終えた後、休みながら神様について考えました。おじいさんやひいおじいさんはいくら厳しい生活だったからと言って、働きすぎだなどと言ってはいませんでした。

私たちの予定表のうち神様から与えられたものこそが価値あるものです。あなたの予定表はもしかしたら予定の順位付けをもう一度見直さなくてはならないかもしれませんが、予定を断るということも考えなくてはなりません。私たちは自分を簡単に正当化してしまいがちですから、そうならないように信仰的な判断を下す時間を持たなくてはなりません。神様に注目すれば私たちの予定表は変えられるのです。

聖歌 573

祈り 天にいます私たちの父よ。私たちがあなたの声を聴く時間を持てるように、私たちが忙しくしすぎないようにしてください。私たちの心を静めてください。私たちがこの世ではなくあなたの価値観で優先順位をつけられるよう助けてください。アーメン。

シャーロット・マイズ
テキサス州 ラボック

3月30日（木）

絶望の中で助けを求める

聖書朗読 詩篇 88編

主よ。私は日ごとにあなたを呼び求めています。あなたに向かって私の両手を差し伸ばしています
詩篇 88：9

詩篇88編が詩篇の中で最も深く暗い詩であることは、疑いありません。ほかの詩が歌う悲しみと違い、詩篇88編は救われる望みがなく、讃えるものもなく、そこにあるのは暗闇だけです。『私のたましいは、悩みに満ち、・・・力のない者のようになっています。死人の中でも見放され、・・・あなたは彼らをもはや覚えてはおられません。』（88:3～5）

それでも詩篇の作者は歌います。『主、私の救いの神。私は昼は、叫び、夜は、あなたの御前にいます。私の祈りがあなたの御前に届きますように。』（88:1～2）

朝に夕に詩篇の作者は苦しんでも、その苦しみや敵にくじけることはありません。詩篇の作者は神様にだけ語るのです。私たちも見習うべきです。心がひどく辛いことでいっぱいになり、もうこらえることができなくなると、人生は無価値で死が間近かに迫っているように感じます。たとえそんなときでも、そんなときだからこそ、私たちは神様に助けを求めて叫ぶのです。『主よ。私は日ごとにあなたを呼び求めています。あなたに向かって私の両手を差し伸ばしています。』（88:9）。そして私たちがそれを信じれば、なんらかの方法をもって神様はその手で私たちを救い上げてくださいます。墓場からでさえ。

讃美歌 316

祈り 神様。私が孤独で無力だと感じる時には、どうぞあなたの存在を感じさせてください。あなたの平安を知らせてください。

救い主の御名において祈ります。アーメン。

ポール・L・ワトソン

ノースカリフォルニア州 ダラム

3月31日（金）

私が賢くなるのはいつ？

聖書朗読 詩篇 94：1～11

主は、人の思いを計ることがいかにむなしいかを、知っておられる。

詩篇 94：11

詩篇の作者はひどい苦しみの中にいます。邪悪がはびこり、不信仰な行動がいたるところで行われています。他の国だけではなく、イスラエルの指導者たちも、神の民にたいする不正義を毎日行っています。

多神教とその信者は、神様がその忌まわしい罪に気づかないと思っています。詩篇の作者は「あなたがたはいつ賢くなるのであろうか。」と問わずにはいられません。

過去の経験から、詩篇の作者は人間の不誠実な心に頼ることはしたくないと思いました。詩篇の作者が誠実な神様にのみ集中したとき、心は穏やかになり、不安は収まりました。『だれが、私のために、悪を行なう者に向かって立ち上がるのでしょうか。だれが、私のために、不法を行なう者に向かって強く立つのでしょうか。もしも主が私の助けでなかったなら、私のたましいはただちに沈黙のうちに住んだことでしょう。』（詩篇 94：16～17）

神様という最高に聖なる統治者の手に正義をゆだねることによって、詩篇の作者は完全な平安と強さを見出したのです。『私のうちで、思い煩いが増すときに、あなたの慰めが、私のたましいを喜ばしてくださいますように。』（詩篇 94：19）

あなたは昨今の逆境から逃れたいと思っていますか。賢くなり、主を見なさい。詩篇の作者のように主の神聖さと誠実さについて考えなさい。主だけを信頼しなさい。主に護りと避け所をいただくのです。

聖歌 347

祈り 聖なるお父様。私たちをあなたの子どもとして愛してくださり、あなたが護ってくださっていることに感謝します。あなたの道と教えは私たちの考えよりも高いのです。そのことを覚えていられますように。

イエス様の御名において祈ります。アーメン。

匿名

テネシー州 ナッシュビル

4月1日（土）

讃 え な さ い ！

聖書朗読 詩篇 100編

全地よ。主に向かって喜びの声をあげよ。喜びをもって主に仕えよ。喜び歌いつつ御前に来たれ。知れ。主こそ神。主が、私たちを造られた。私たちは主のもの、主の民、その牧場の羊である。 詩篇 100：1～3

子どもが歩くのを見たことがありますか。子どもはほとんど歩きません。歩くかわりにぴょんぴょん跳んだり、スキップしたり、小走りしたり、突進したり、跳び上がったりします。子どもたちはただ動くことを楽しんでいるように見えます。そして毎日、自分に活動する力があるということを喜んでいるのです！ 子どもの身体は自然に活動するように造られているのです。

詩篇 100:2は、私たちに『喜びをもって主に仕えよ。』と命じています。もともと身体を動かさずにはいられない子どもたちのように、私たちは喜びのあまりはじけることができますのです。私たちに必要なものをすべて下さる神様に、今だけでなく将来もずっと贈り物をくださるように、また過去にいただいた恵みによって現在祝福されていることに感謝しましょう。

礼拝に出なかったり、昼食の時間が早く来ないかなあという思いで礼拝したりしないで、詩篇の作者のように私たちの感謝をあふれ出させましょう。

詩篇 100 編に出てくる動詞は、叫ぶ、仕える、知る、入る、与える、です。これらの動詞は私たちの主との関係を表現しています。この詩篇は神様の行動をもまた示しています。神様は私たちを造られた方であり、その愛と誠実が耐えることはありません。さあ、神様を讃えましょう！

讃美歌 第二編 72

祈 り 神様。あなたを讃えることを私が覚えているように力を貸してください。あなたは偉大で全能です。私へのあなたの愛は圧倒的です。私の神であるあなたの名を讃えます。

イエス様の御名において。アーメン。

シャロン・フォスター
テネシー州 マッケン

4月2日（日）

仕 え る 王

聖書朗読 詩篇 113編

だれが、われらの神、主のようであろうか。主は高い御位に座し、身を低くして天と地をご覧になる。 詩篇 113：5～6

子どもの時、私は自分の寝室のドアにポスターを吊るしていました。それには一匹の汚れた子犬を助けようと膝をかがめている小さな男の子の絵と「誰かを助けようとする時に、まっすぐ立ったまま助けようとする人はいない」という言葉が書かれていました。

全能の創造主は私たちを助けるときには腰をかがめてくださるのです。こう考えることは何とすばらしいことでしょう。私たちを高く持ち上げるために神様は身を低くなさるのです。そのお返しに私たちは『主の御前でへりくだる』のです（ヤコブ4：10）。

子どもがいなくて悲しむ夫婦が、子だくさんで苦勞している夫婦に助けを申し出ます。子どもが巣立ってさびしい思いをしている親は、教会で助けを必要としている子どもと仲良くなります。妻を亡くした人が地域のホスピスに加わり、愛する人を病気で失う人々を助けることにやりがいと友人を得ます。裕福な家族が毎日曜の教会で、ホームレスの避難所に食料を供給するための奉仕をします。

身を本当に低くして仕えてくださる主、それゆえに主を讃えましょう。今日の日に私たちも身を低くして「誰かを助けようと腰をかがめる」ことができますように。

讃美歌 第二編 169

祈 り 主よ。今日、他人を助けるための機会を見つけることができるように、私の目を開いてください。主よ、あなたを愛します。

イエス様の御名において。アーメン。

サンデ・ドーガリター
カリフォルニア州 マリブ